

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770902555		
法人名	株式会社 おだやか		
事業所名	グループホームおだやか高槻松が丘		
所在地	大阪府高槻市松が丘1-9-3 Aユニット		
自己評価作成日	平成27年4月27日	評価結果市町村受理日	平成27年6月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成24年5月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、馴染みの職員や入居者と一緒に個性豊かな暮らしを作って頂けるホームです。職員は入居者、お一人お一人の気持ちを尊重し、自立支援をケアの中心に考え、入居者の安心な生活作りを、お手伝いしています。開設9年を経て、地域との関係も深まり自治会活動にも参加し、運営推進会議では、地域高齢者の状況や活動について情報を得たり、メンバーからの当ホームへの意見や助言を、ケアに活かしています。又推進会議メンバーに避難訓練に参加して頂き、協力関係を築いています。これからも、市主催の認知症フェアや包括の安心声掛け運動に参加して、認知症高齢者への理解を広めたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「(株)おだやか」は介護保険法が改正され、地域密着型サービスが創設されたのを機に北摂地域にグループホームを次々と設立した。当事業所は、その内の一つで平成18年3月に設立した。事業所独自の理念は「私は 私です。私らしく この地域の方々や仲良く 安心してくらしたい」とあるように、普段の生活にもノーマライゼーションの精神が滲み出ている。利用者本人が出来ることは自身でやって頂く、今まで通りの生活を優先するのである。調理、洗濯、書道・絵画等得意の分野を分担している。事業所の理念・食事のメニューが、素晴らしい筆文字で書かれているが利用者が書いたと言うから驚きである。介護度の改善された例があるのも理解できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の生活援助についての話し合いや、ケアカンファレンスの場などで、理念を踏まえて、その人の人格を尊重し、地域の一員としての暮らしを大切にしているかを話し合っている。	「私は私です。私らしく、この地域の方々と仲良く安心して過ごしたい」と、事業所独自の理念を作りあげ、書道の好きな利用者が筆ペンで書いたものを掲示、日々職員の行動が理念にあっているか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し草刈りや、年末夜回りに職員が参加し、月1回の溝掃除にも参加して、近隣の方々と交流している。毎朝の散歩では、挨拶や立話しも出来ている。	法人として自治会に加入し地域の行事に参加するだけでなく、清掃活動や声掛け運動に参加したり、地域の介護の相談にのるなど地域貢献を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を開放し、その中で日々の暮らしを紹介し、認知症の人への理解を広め、見学者の方には、出来るだけ丁寧に悩みを聴いたりアドバイスもしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の状況やサービスの実際の報告し、その時に出た提案や事故報告への具体的なアドバイスをサービスの向上に活かしている。職員が学習したり、研修で得た内容を報告したり、年1回避難訓練にも参加してもらっている	利用者家族、自治会代表、地域包括支援センター職員、事業所職員等が参加して隔月に開催している。そこでは事業所の状況報告だけでなく、参加者からの意見や提案を受け、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な事があれば、すぐ訊ねたり相談して事を進めている	市役所の介護保険課や生活福祉支援課とは書類提出時など折に触れ訪問し、事業所の実情やサービスの取り組みについて伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学び、日々の具体的な場面において、話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。 交通量の多い道路に面しているため、安全面での施錠は、やはり必要と思っている。	全ての職員は、身体拘束をする事によって与える身体的精神的苦痛を理解し、内部研修会を行いながら拘束のないケアの実践に努めている。事業所が府道に面し、交通量が多く危険防止のため玄関は施錠しているが、見守りの出来る範囲で開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ミーティングで伝達研修を行い、スタッフ全体で理解に努めている。 複数職員がケアにあたり、虐待の危険性のないようしている。スタッフのストレス軽減にも気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての研修に参加している。 今は、制度を活用している入居者はいないが、必要な時は活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し利用者・家族の疑問点を伺い理解と同意を得られるよう努めている 途中の加算変更などにも、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場で、ご家族の気持ちや意見を伝えてもらっている。又日常的に気軽に、意見要望を言ってもらえる雰囲気作りをしている。相談員さんには利用者の声を聞いてもらっている。	平素の利用者との会話の中から、また、運営推進会議や家族の訪問時、介護相談員の訪問時などあらゆる機会を利用して、介助に対する要望や意見を聞き出し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケアカンファレンスや、日々の連絡ノートに出された意見や提案を活かしてケアしている。又出された意見や提案は本部で開かれるホーム長会議に持っていき、運営に反映している。	管理者は、毎月の会議や個人面談等で運営に関する意見や介護技術等の提案する機会を設け、運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	立場や働き方に関係なくスタッフの気づきや工夫を日々の介護の場に活かせる職場を作り、資格の習得が給与に反映できている。研修には参加費・交通費・時給も保障されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を提示、参加者には交通費や時給も保障し参加を薦め、参加者の職場内報告を行っている。 職場内研修会・認知症学習も定期的開催している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括ケア会議・事業所連絡会に参加 地域ケアマネ学習会参加 近隣グループホームとの交流にも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家族から情報提供を受け、本人の気持ちに耳を傾け、言葉で表現できない気持ちの汲み取りに努め、安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が、困っていることや要望を、プライバシーの保護に気をつけながら、聞くことにより信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、申込み時にご本人や家族が必要とされているサービスを見極め、他のサービスや暮らし方をアドバイスする時もある。特に入居初期段階では家族との連携を密に取っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家庭的な環境の中で、ご本人の得意な事や、好きな事を活かして暮らしていけるよう、寄り添う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別の生活歴を知り、家族との連携に努めている。職員が対応困難な事は、家族に相談し協力をお願いすることもある。通院や買い物外出、外泊で家族との関係継続もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人が、いつでも気軽に面会に来ていただき易い雰囲気を作り、職員も一緒に歓迎している。又、手紙・ファックス・電話のやり取りを積極的に支援し、関係を継続していただきたいと願っている。友人・家族・ボランティアの訪問は多い。	利用者本人が今まで関わってきた地域社会との関係を継続して行くために、馴染みの店へ買い物に出掛けたり、趣味の教室への参加をしたり、友人知人に事業所へ来て頂くなど、家族の協力も得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の存在が、安心となっている。また、職員が間に入ったり、座席を工夫して、利用者同士の安心な関係作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先を見舞ったり、家族様が遠くにおられる方には、買い物を手伝ったりしている。又家族様の問い合わせには出来る限り相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジ					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事利用者本位の視点を持ち、ご本人が出来る事、したいことを見つけ、ご本人が望まれる生活へ、つなげるよう努力している。	毎日の関わりの中から、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、書道の得意な利用者には施設内の掲示物や献立のメニューを書いてもらったり、趣味の教室に参加している人もいるなど、工夫をこらした支援がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、生活歴や日常の関わりの中から意向を汲み取っている。入居前の事業所と連絡を取りケアに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活ペースを尊重し、体調にも気をつけながら、対応している。出来る力に目を向け実践できるよ気をつけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで個別ケアを検討しモニタリングを行い、本人・家族・職員の意向や意見を聞きながら、計画作成している。	介護計画の期間は一応長期を6ヶ月、短期を3ヶ月としているが、介護担当者による日々の支援経過やモニタリングにより、変化が起きた時にはその都度、臨機応変に介護計画の見直しを行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録・連絡ノート。ひやりはっと・気づきメモなどで情報共有しながら、計画作成にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況やニーズに、臨機応変に対応している。個別の通院や買い物にも出来るだけ対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入り、地域の行事に参加して、交流を深め、困った時は、助けて頂けるように関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に提携医療機関の説明を行った上で、本人、家族の希望する医療機関を選択して頂いている。提携医療機関以外の受診は基本的に家族に付き添ってもらうが、必要に応じ施設職員が同行し、病状の把握に努めている。	かかりつけ医は、本人や家族等の希望する医療機関になっている。受診や通院支援については、基本的には家族が対応することになっているが、必要に応じて職員が同行するようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の訪問看護を付き4回受け、健康管理を行っている。褥瘡等の予防、処置についても指導を受け、適切な処置ができるように努めている。介護職では対応できない医療行為を任せている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族で対応できない場合は職員が着替え等必要な物を届けている。出来るだけ早期の退院に向け、家族や病院関係者と情報交換を行い、ホームへの復帰を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時、重度化、終末期の対応についてホームでの方針を十分に説明し、入居時、それ以後は定期的に確認を取っている。協力医療機関、家族とも相談を重ね、最善を尽くしている。	重度化した場合の対応のあり方について、事業所の指針を作成、対応しうる最大のケアについての説明をし、都度同意書を交わしながら、その方針を共有、家族等の納得の出来る支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を有した職員が中心となり、定期的にAEDを使った救命講習を実施している。また、実際に起こった事例については反省点が今後活かせるよう職員全員で検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災を想定した避難訓練の実施。その際、日勤帯、夜勤帯の対応をおのおの検討。水害、地震災害は戸外へ出る事よりリスクが大きいと判断し、基本的にはホーム内の安全な場所に待機の方針。運営推進会議で地域の協力を得られるよう働きかけている。	災害時における避難訓練や消防訓練を利用者と共に年に2回消防署指導のもと行っている。災害に備えた備蓄備品も整えられている。しかし、夜間を想定した地域の方々と共に行う避難協力体制は少し不十分である。	職員が利用者を安全な処まで誘導した後の見守りを近隣の方をお願いする事を企画し、ミニ避難訓練を折に触れて行うなど、いざという時に混乱しないような役割分担が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、認知症について学び理解を深めるよう研修を受けたりして日々のケアの中で人格尊重・プライバシーの確保に心掛けている。特に排泄ケアの場面での配慮に気を付けている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉かけや介助が見られる。個人ファイルも事務室の書棚に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を大切に、希望や願いを日々の生活の中での言葉や表情で掴めるようにしたいと思っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、生活していただいている。(食事・休息・入浴など) 外出・買い物への希望に個別に対応したいが、人員の都合で限度もある。ご家族に利用者の希望を伝えて、叶えてもらうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、毛染めは本人の希望 基本的には季節に応じた服装を勧めるが、本人の好みの物を着る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備(野菜を切ったり、盛り付け、配膳等)を出来る事を見極め担当してもらっている。それがやりがいや楽しみになっている。その日のメニューを食事の前に伝えるようにしている。	食材会社の提供する食材ではあるが、調理、盛り付け、食事、後片づけも利用者と共に家庭的な雰囲気の中で行われている。おやつレクでは利用者の希望を聞きながらメニューを決め、買い物、調理を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態(特に糖尿病)や、嚥下状態に配慮して食事量・形態の工夫(刻み・とろみ・おかゆ等)をしている。 水分も好きな味(水、お茶、コーヒー、紅茶、ココア等)を用意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月一回の訪問歯科による口腔ケア指導を受け、日々食後の口腔ケアに見守り声かけしているが、長年の習慣で難しい面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は、排泄のリズムをつかみ、トイレ誘導してトイレでの排泄に向け支援している。トイレの場所や便器にどう座るかが解らず困っている場面もあるが、丁寧な声かけ誘導に心がけている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく一人ひとりをトイレ誘導するなどして、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気をつける 毎朝ヨーグルトを食べる。毎朝散歩する。常時便秘薬を使用しない。個別対応をまめにする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日や時間は決めている。入浴の介助量も増え、1日に入浴できる人数にも制限があるが、出来るだけ本人の意向に沿うようにしたいと思っている。	お風呂は毎日 午後2時～4時 入浴出来るよう準備し、各入居者が入浴されるのは だいたい週2～3回ではあるが、利用者の希望に合わせた、入浴が楽しめるようしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。 午後の1時間程度の昼寝を勧めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について、調剤薬局から説明を受け、薬が変わった時には特には様子観察に気を付け、医師に報告している 誤薬、飲み忘れには複数の職員が確認するようにして注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが好きな事、得意な事を活かせるよう日々の生活の場で役割を作っている。喫煙者には自由に喫煙を楽しめるようにして、喫煙場所とライターの管理には気をつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝、散歩しているが、買い物や希望に沿った外出にはその日のスタッフの状態が難しい時もある。外食や地域の行事参加等外出の機会も多く、墓参りや食事に家族と出掛けることが生きがいにしている。	利用者のその日の希望に添って、事業所周辺を散歩したり、買い物に出掛けたりしている。時には外食に出掛けたり、家族の協力を得て墓参りに出掛けることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと一緒に買い物に出かけた時は、その方の力に応じて支払いもしてもらいたいと思っているが、困難になってきている。 バザーの日に決まったお金を持って好きなものを買う機会もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・ファックス・手紙のやり取りを手伝っている。 希望者には年賀状や暑中見舞いを出してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、安全と清潔を心がけ、皆で集える雰囲気を作っている。 職員・入居者協力して季節の壁面づくりを行っている。	ゆったりしたリビングルームでは利用者それぞれがテレビを見たり、新聞や雑誌を読んだり、仲間同士が話し合ったりしてくつろいでいる。 壁には利用者や職員の作った作品の展示があるなど、生活感に溢れ居心地良く過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルには食事の時以外は、どこにでも座れるようにし、一人で雑誌を読んだり、テレビを好きな人は一緒に見たりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別に使い慣れた家具等を持ってこられ、テレビも希望される方は、個人で持って来られ、自室で楽しんでいる。衣替えの季節は、なるべくご家族にお願いしている	それぞれの居室には、利用者の使い慣れた家具や家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地良く過ごせるための工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分かるよう目印をつけている。車いすが自走出来よう、空間作り、足元の安全に気を付けている。		